

11 經濟專攻專門科目

授業科目	日本経済論	担当者	船津 潤
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	講義前後, それ以外にも随時(日時を調整することがあるかもしれませんが, 遠慮なく声をかけてください)
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本の明治維新以降の経済・経済政策の動きとその背景について理解を深めること</p> <p>【概要】明治維新から現在までの日本の経済と経済政策の動向について, 特に産業政策, そして構造改革とアベノミクスに焦点を当てながら講義します。また, 過去が現在とどうつながっているかという歴史的推移とともに, 石油危機, プラザ合意, 日米構造協議, そしてグローバル化といった海外からの影響を強く意識しながら講義を進めます。</p> <p>【到達目標】①明治維新以降の日本の経済と経済政策の歴史的推移について理解し, 説明できるようになること ②日本経済の歴史と海外とのつながりを踏まえて, 日本経済の現状と課題について自分なりの見解が持てるようになること</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 三和良一『概説日本経済史 近現代 (第3版)』東京大学出版会 内閣府『年次経済財政報告 各年度版』</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス: 講義の目標, 評価基準等の説明</p> <p>第2回 日本の産業政策の歴史 戦前(1): 資本主義社会とはどんな社会か等</p> <p>第3回 日本の産業政策の歴史 戦前(2): 明治維新の意義, その後の産業構造の変化等</p> <p>第4回 敗戦直後の日本経済: 敗戦直後の状況, 傾斜生産方式, 1950年代前半の産業政策等</p> <p>第5回 高度成長の開始: 高度成長初期の産業政策と経済状況・産業構造等</p> <p>第6回 行政指導: 勸告操短, 企業の反発等</p> <p>第7回 開放経済体制への移行: IMF8 条国への移行, 産業再編等</p> <p>第8回 1970年代の日本経済: 2度のオイル・ショック, 構造不況業種への対応, 知識集約化・高付加価値化への動き等</p> <p>第9回 企業集団とその変化: 戦後の企業集団の特徴, グループ内の結び付き, 現在の状況等</p> <p>第10回 1980年代以降の日本経済: 対米貿易摩擦, 日米構造協議等</p> <p>第11回 現在の産業政策: 産業競争力強化法, 現在の産業政策の特徴等</p> <p>第12回 グローバル化と構造改革への動き: プラザ合意と国際協調, バブル崩壊後の動向等</p> <p>第13回 構造改革: 構造改革の特徴・本質等</p> <p>第14回 構造改革とアベノミクス: 構造改革下の福祉改革の内容と特徴, アベノミクスとの比較等</p> <p>第15回 まとめ: 講義を振り返りつつポイントの説明, 試験についての説明等</p>		
授業外学習(予習・復習)	<p>普段から日本経済関連のニュース(できれば外国のメディアを含む複数)に注目すること, 特に講義後に関連する事項についてインターネットや文献等を通して調べ, 検討することを勧めます(これらは公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも非常に有効です)。そして, 講義内容に直接関係しなくても, 聞きたいことが出てきたら, 遠慮なく質問してください。</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験(80%), 小テスト(20%)を基本とし, アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p>		

授業科目	財政学	担当者	船津 潤
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	講義前後, それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが, 遠慮なく声をかけてください)
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】財政に関する基本的な概念や理論, 日本の財政の基礎的な制度について, 内容, 実態, 特徴, 課題に関する理解を深めること</p> <p>【概要】まずは財政に関する基本的な概念や理論について講義します。その上で, それらを踏まえて財政の基礎的な制度に関する講義を行います。ここでは, 財政民主主義という財政制度の根幹, 経済における公共部門と民間部門の関係, 歴史的推移, そしてグローバル化の影響を強く意識しながら講義を進めます。この講義を受講することで, 経済学等で学んだマクロ経済学の理論等が実際にどのように政府の政策に活用されているのかも理解できると思います。また, 財政は, 政治と経済の「つなぎ目」の役割を担っていますので, 他の科目では触れることが少ない経済に対する政治の影響に関しても見識を高めることができるはずです。</p> <p>【到達目標】①財政の基礎的な制度について理解し, 説明できるようになること ②実際の政府の活動について分析・評価できるようになること ③マクロ経済学の理論等がどのように政策に活用されているのかを理解すること ④財政の影響を踏まえて, 経済・社会の動向を的確に把握できるようになること</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 金澤史男編著『財政学』有斐閣(2005年) 植田和弘・諸富徹編著『テキストブック現代財政学』有斐閣(2016年) 佐々木伯朗編著『財政学』有斐閣(2019年) 廣光俊昭編著『図説 日本の財政 各年度版』東洋経済新報社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス: 講義の目標, 評価基準等の説明</p> <p>第2回 財政(1): 財政の定義, 財政学の特徴, 政府に対する評価の揺れ等</p> <p>第3回 財政(2): 市場の失敗, 財政民主主義と制度化に必要な原則等</p> <p>第4回 予算(1): 定義, 役割, 政府と議会の役割, 予算原則等</p> <p>第5回 予算(2): 予算の種類, 特別会計と「埋蔵金」, 改革の方向等</p> <p>第6回 経費(1): 定義, 主要な分類, 経費膨張の法則, 転位効果等</p> <p>第7回 経費(2): 小さな政府論とサプライサイド・エコノミクス等</p> <p>第8回 租税(1): 定義, 租税の根拠, 代表的な租税原則等</p> <p>第9回 租税(2): 公平の基準, 望ましい税制とは等</p> <p>第10回 公債(1): 定義, 民間債務・租税との対比, 公債の種類等</p> <p>第11回 公債(2): 日本の国債発行における原則, 制度, 「ギリシャよりひどい」は本当か等</p> <p>第12回 財政投融资: 定義, 運用対象, 批判, 2001年度の改革, 今後の展望等</p> <p>第13回 財政の国際化: 国際公共財, グローバル化と国際的財政移転等</p> <p>第14回 財政改革を考える: 社会の変化と財政, 財政危機とは, 財政改革で求められる視点等</p> <p>第15回 まとめ: 講義を振り返りつつポイントの説明, 試験についての説明等</p>		
授業外学習(予習・復習)	<p>講義の前後に財務省のサイト等で関連事項について調べて検討すること, 普段から経済・財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディアを含む複数, 加えて日本関連だけでなく, 諸外国関連のニュースも)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも非常に有効です)。そして, 講義内容に直接関係しなくても, 聞きたいことが出てきたら, 遠慮なく質問してください。</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験(80%), 小テスト(20%)を基本とし, アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p>		

授業科目	農業経済論		担当者	岡田 登
	[履修年次]	1, 2年	授業外対応	適宜対応
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】表面化している食料・農業・農村の問題の背景を理解する。</p> <p>【概要】世界農業の形成過程及び日本農業の展開を把握した上で、生産、組織、流通等の仕組みを学び、現在起こっている農業経済現象とその原因を理解する。</p> <p>【到達目標】食料・農業・農村の問題の背景を理解し、日本農業の今後の展望と農業のあり方を説明できる能力を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 はじめに：講義の目標、食料・農業・農村の問題提起、鹿児島島の農村景観</p> <p>第 2回 農業の基礎：基本知識</p> <p>第 3回 世界農業の形成過程：農業の起源、農業形態の発展、雑草対策、植民地政策、大規模穀物生産</p> <p>第 4回 日本農業の展開（1）：稲作の普及、近郊農業、明治期から戦前までの展開</p> <p>第 5回 日本農業の展開（2）：経済成長期、農業基本法と産地形成、食糧管理法と農地法</p> <p>第 6回 日本農業の展開（3）食糧管理法から食糧法、米の生産調整、農地法改正、食料・農業・農村基本法への転換</p> <p>第 7回 農業保護政策：国内市場、農産物貿易</p> <p>第 8回 農業のグローバル化：フードレジーム、日本における農産物自由化</p> <p>第 9回 農産物流通の仕組み：農業協同組合、市場流通</p> <p>第 10回 農業と関連産業：アグリビジネス</p> <p>第 11回 農業法人の設立：農地法改正と農業法人化、農業経営基盤強化促進法</p> <p>第 12回 農産物の高付加価値化とブランド化：有機農産物、伝統野菜、地理的表示、食の安全性、六次産業化、農商工連携</p> <p>第 13回 農村空間の商品化：観光農園、農産物直売所、地産地消</p> <p>第 14回 都市の農村化：都市農業、市民農園、体験農園、自家菜園、マルシェ</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	復習をして次回の講義を受けること			
成績評価の方法	授業時に実施するレポート(40%)＋期末試験(60%)			
実務経験について	自治体の元職員			

授業科目	ファイナンス論		担当者	岩上 敏秀
	[履修年次]	1年、2年	授業外対応	いつでも対応します。メールで連絡してください。
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】資産運用のための投資商品や投資手法について実践的な知識を学びます。</p> <p>【概要】私たちが働いて生涯で得られる所得は限られています。限られた生涯所得を運用し、上手に資産形成しながら将来に備えていく必要があります。本講義は、債券や株式などさまざまな投資商品について学んだ上で、リスクを抑えながら一定の効果を生む投資手法について考えていきます。スマホを活用したリアルタイム投稿システムを使って、受講者と双方向コミュニケーションしながら講義を進めます。</p> <p>【到達目標】・証券投資や資産運用に関するニュースを理解できるようになる。 ・各種投資商品の内容とリスクを理解し、自分に最適な投資商品を選べるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業内で適宜紹介する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：講義の目的・進め方 序論：資産形成が必要な理由</p> <p>第 2回 金利：金利の仕組み、単利と複利、ローン支払い額計算</p> <p>第 3回 貨幣の時間的価値：キャッシュフロー、現在値と将来価値、割引率</p> <p>第 4回 債券(1)：債券とは、債券市場、債券取引</p> <p>第 5回 債券(2)：債券の価格と利回り、債券のリスク</p> <p>第 6回 株式(1)：株式とは、株式市場、株式取引</p> <p>第 7回 株式(2)：株式の投資尺度、株価評価モデル、株式のリスク</p> <p>第 8回 株式(3)：株式取引の事例</p> <p>第 9回 証券投資と資産運用：資産運用の目的、長期・積立・分散投資の効果</p> <p>第 10回 リスクとリターン：期待収益、リスクの測定</p> <p>第 11回 ポートフォリオ理論(1)：安全資産とリスク資産、投資家選好</p> <p>第 12回 ポートフォリオ理論(2)：分散投資の効果</p> <p>第 13回 さまざまな投資商品(1)：投資信託、ETF</p> <p>第 14回 さまざまな投資商品(2)：金、FX、海外投資(外国株式・債券・投信)、不動産</p> <p>第 15回 まとめ：講義の振り返り、期末試験に関する質疑応答、講義評価アンケート実施</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します。			
成績評価の方法	中間レポート(30%)＋期末試験(70%)			
実務経験について	国内外の金融機関で約30年の実務経験があります。			

授業科目	経済学史		担当者	カムチャイ ライサミ				
	[履修年次]	1年、2年	授業外対応	講義終了時				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経済学史入門 経済学説の史的展開をやさしく解説する。</p> <p>【概要】経済学の時代的要請と経済学者の略伝 経済学の黎明期前後（17世紀頃）から現代経済学（20世紀初頭）までの主要経済学説と経済学者を中心に紹介する。</p> <p>【到達目標】経済学の歴史を知ることによって経済学がより深く理解できること 経済学の歴史を学んでその意義と限界を知ることによって経済の正しい見方を身につける。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキストなし。毎回プリントを配布する。</p> <p>(2) 必要に応じて、その都度指示する。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 経済学史の範囲と方法：経済学史年表</p> <p>第2回 重商主義の経済思想：マリーンズ、マン、スチュアート</p> <p>第3回 重農主義の経済思想：ケネー、テュルゴー</p> <p>第4回 過渡期の経済思想：ペティ、ロック、マンデヴィル、カンティロン、ヒューム</p> <p>第5回 古典学派の生成：スミス</p> <p>第6回 古典学派の発展：マルサス、リカード</p> <p>第7回 古典学派の完成：セイ、シスモンディ、シーニア、ミル</p> <p>第8回 ドイツ歴史学派：リスト、ヒルデブラント、ロッシヤー、クニース</p> <p>第9回 マルクスの経済学説</p> <p>第10回 限界革命の先駆者達：チューネン、ゴッセン、デュピュイ</p> <p>第11回 限界分析の経済学：クールノー、ジェヴォンズ</p> <p>第12回 オーストリア学派：メンガー、ウィーザー、バウム＝バヴェルク</p> <p>第13回 ローザンヌ学派：ワルラス、パレート</p> <p>第14回 ケンブリッジ学派：マーシャル、ピグウ</p> <p>第15回 ケインズ革命：ケインズ</p>							
授業外学習(予習・復習)	授業前後に必ず合計で4時間程度の予習・復習を行うこと。							
成績評価の方法	期末筆記試験（100%）							

授業科目	経済学特講Ⅰ		担当者	岩上 敏秀				
	[履修年次]	2年	授業外対応	いつでも対応します。メールで連絡してください。				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】証券外務員一種資格試験合格に必要な証券取引の基礎知識および実務知識を学びます。</p> <p>【概要】金融機関の職員として金融商品の営業活動に従事するには、証券外務員の資格が必要です。本講義は、銀行などの金融機関に内定した学生を対象に、証券外務員一種資格試験に合格するために必要な証券取引の基礎知識および実務知識を学びます。商経学科以外の学科から銀行に内定している学生の履修も歓迎します。（本講義は、金融商品を販売する側の金融機関での実務知識を学びます。金融商品を利用する側の証券投資や資産運用を学びたい場合は、「ファイナンス論」の履修を薦めます）</p> <p>【到達目標】証券外務員一種資格試験に合格できる知識を修得する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業内で適宜紹介する</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的・進め方 序論：間接金融と直接金融、証券市場</p> <p>第2回 株式会社法：株主の責任と権利、株式会社の機関</p> <p>第3回 財務諸表と企業分析(1)：財務諸表の仕組み、収益性分析、安全性分析</p> <p>第4回 財務諸表と企業分析(2)：資本効率性分析、成長性分析、損益分岐点分析</p> <p>第5回 株式業務：証券取引所取引、店頭取引、株式の上場、株式投資計算</p> <p>第6回 証券売買のルール(1)：証券取引所のルール、証券業協会のルール</p> <p>第7回 証券売買のルール(2)：金融商品取引法のルール</p> <p>第8回 債券業務(1)：債券の仕組み、債券市場、債券売買</p> <p>第9回 債券業務(2)：債券投資計算、転換社債型新株予約権付社債</p> <p>第10回 投資信託業務：投資信託の仕組み</p> <p>第11回 デリバティブ取引(1)：先物取引</p> <p>第12回 デリバティブ取引(2)：オプション取引、店頭デリバティブ取引</p> <p>第13回 証券税制：利子所得・配当所得・譲渡所得の課税、相続・贈与の課税</p> <p>第14回 確認テスト</p> <p>第15回 まとめ、確認テスト答案返却・解説、講義評価アンケート実施 (受講者の外務員資格試験受験日程を踏まえ、講義スケジュールを変更する可能性があります)</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します。							
成績評価の方法	確認テスト（100%）							
実務経験について	国内外の金融機関で約30年の実務経験があります。							

授業科目	経済学特講Ⅱ		担当者	山口 祐司	
	[履修年次] 1、2年		授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。	
	[学期] 前期	[単位] 2	[必修/選択]	選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 アメリカ経済とアメリカを中心とした国際経済関係の歴史を通して、経済学上のキーワードを学んでいきます。</p> <p>【概要】 アメリカの力の相対的低下にもかかわらずアメリカに学ぶ意義（第1回）。19世紀から20世紀初頭にかけてのアメリカ経済の勃興（第2～3回）。1929年に始まる大恐慌の原因と結果（第4～6回）。1950～70年代にかけて、アメリカが主導する資本主義陣営の高度経済成長とその限界（第7～9回）。1980年代以降の、「新自由主義」と呼ばれる改革をテコにした新たな経済成長の仕組み（第10～12回）。新自由主義がアメリカにもたらした問題と今後のゆくえ（第13～14回）。経済を考える上でも、科学・技術や文化、政治など、同時代の社会の動きを知ることは重要である。映像資料等を利用してそうした知識も補っていく。</p> <p>【到達目標】 アメリカ経済の歴史から特質を学ぶこと。良い意味でも悪い意味でも資本主義経済の最先端をいくアメリカに学ぶことで、日本を含む世界が直面する経済・社会の問題に取り組む力をつけること。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 講義時に提示</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、なぜいまアメリカ経済を学ぶか 第2回 アメリカ経済の勃興（1）大量生産体制 第3回 アメリカ経済の勃興（2）債務国から世界最大の債権国へ 第4回 大恐慌と第二次世界大戦（1）狂騒の1920年代 第5回 大恐慌と第二次世界大戦（2）保護貿易と世界恐慌 第6回 大恐慌と第二次世界大戦（3）ニューディールと戦争 第7回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（1）ブレトンウッズ体制と戦後国際経済秩序 第8回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（2）ケインズ政策と持続的経済成長 第9回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（3）ドル危機と石油危機 第10回 新自由主義の興隆（1）レーガノミクスと金融化 第11回 新自由主義の興隆（2）グローバルサプライチェーンの形成 第12回 新自由主義の興隆（3）先端技術とイノベーション 第13回 新自由主義の帰結（1）リーマンショック 第14回 新自由主義の帰結（2）格差問題のゆくえ 第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。				
成績評価の方法	期末レポート（60%）、授業ごとの小論文（40%）				

授業科目	法学特講		担当者	疋田 京子	
	[履修年次] 1,2年		授業外対応	コミュニケーションカードを利用する	
	[学期] 後期	[単位] 2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ジェンダーの視点から法を捉え直し、ジェンダーという概念の多義性と、ジェンダー/セックス/セクシュアリティなどの概念を学ぶ。</p> <p>【概要】法は平等や中立性を実現するものとされていますが、現実にはマタニティ・ハラスメントや管理職・議員の女性比率や賃金の男女格差など、性別に基づく差別はなお深いものがあります。講義では、こうした法の理念と、現実とのギャップを架橋しようとするジェンダー法学の到達点を概観します。</p> <p>【到達目標】ジェンダー概念それ自体、法との関係について理解し、ジェンダーの視点から法の世界を見直すことを目指します。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。 (2) 講義時に適宜紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 ジェンダーとは何か：なぜジェンダー概念が必要だったのか 第3回 ジェンダー概念の展開：セックス/ジェンダー/セクシュアリティ 第4回 ジェンダーと法：ジェンダー主流化による法政策 第5回 性暴力とジェンダー（1）なぜ「女性に対する暴力」を問題にするのか？ 第6回 性暴力とジェンダー（2）強姦罪から強制性交罪へ 第7回 性暴力とジェンダー（3）ストーカー、セクシュアル・ハラスメント 第8回 性暴力とジェンダー（4）ドメスティックバイオレンス 第9回 労働とジェンダー：男女雇用機会均等法の意義と問題点 第10回 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ：優生保護法から母体保護法へ 第11回 家族法とジェンダー（1）：婚姻・離婚・夫婦同性制度 第12回 家族法とジェンダー（2）生殖補助医療と家族関係 第13回 性の多様性と法（1）性同一性障害特例法の意義と問題点 第14回 性の多様性と法（2）パートナーシップ条例の意義と問題点 第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	講義中に紹介した映画や本にぜひ直接接してください。				
成績評価の方法	毎回の小レポート（40%）と最終レポート（60%）				

授業科目	簿記論Ⅱ	担当者	岡村 雄輝
	[履修年次] 1,2年 [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応 [必修/選択]	講義前後に適宜対応 選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複式簿記の基本原則を学ぶ</p> <p>【概要】日商簿記3級レベルのテキスト、ワークブックを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通じた複式簿記の基本原則の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。※簿記論Ⅰと連続して講義を展開しますので、併せて受講してください。</p> <p>【到達目標】個別の勘定科目に応じた決算手続、補助簿、伝票の記入を学習する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部裕互, 片山寛, 北村敬子 (編)『新検定 簿記講義3級 商業簿記』『新検定 簿記ワークブック』(令和4年版), 中央経済社。</p> <p>(2) 伊藤龍峰ほか『基本簿記原理』(第2版), 中央経済社。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 簿記とは? : 簿記の意義, 目的, 財務諸表</p> <p>第2回 仕訳と転記: 仕訳の意義, 勘定への転記</p> <p>第3回 決算: 決算の意義と手続, 試算表作成</p> <p>第4回 決算: 帳簿の締切りと財務諸表の作成, 決算手続と精算表</p> <p>第5回 現金と預金: 当座預金と当座借越, その他の預金, 小口現金</p> <p>第6回 繰越商品・仕入・売上: 仕入帳と売上帳, 商品有高帳</p> <p>第7回 売掛金と買掛金: 売掛金明細表と買掛金明細表, クレジット売掛金, 前払金と前受金</p> <p>第8回 その他の債権と債務: 仮払金と仮受金, 受取商品券, 差入保証建</p> <p>第9回 有形固定資産: 有形固定資産の取得と売却, 減価償却, 固定資産台帳, 年次決算と月次決算</p> <p>第10回 資本: 株式会社の設立と株s期の発行, 繰越利益剰余金, 配当</p> <p>第11回 収益と費用: 収益・費用の未収・未払いと前受け・前払い, 消耗品と貯蔵品</p> <p>第12回 伝票: 仕訳帳と伝票, 3伝票制, 伝票から帳簿への記入, 伝票の集計</p> <p>第13回 財務諸表: 精算表の作成, 財務諸表の作成</p> <p>第14回 総合問題: 問題演習と解説②</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできるようになりません。		
成績評価の方法	期末テスト80%, 小テスト20%		

授業科目	国際経済論	担当者	野村 俊郎
	[履修年次] 1,2年 [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応 [必修/選択]	講義前後に適宜対応 選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】WTOについて学び、国境のない世界、自由で平和な世界を目指すとはどういうことか考える</p> <p>【概要】現在の世界は国境によって193の国に分かれている。しかし、WTOによって経済的な国境の壁は低くなり、企業は国境を超えて全世界で活動するようになった。WTOは第2次世界大戦の反省に基づいて生まれたGATTを前身としている。経済的な国境の壁を低くすることが、どのように国境のない世界、自由で平和な世界に繋がっていくかを順次説明していく。</p> <p>【到達目標】第2次大戦前のブロック経済がどのように戦争に進んだのか、それをどう反省してGATTが創設されたのか、自由で平和な世界に向かうWTOの意義と限界を理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布</p> <p>(2) 野村俊郎『トヨタの新興国車IMV』および『トヨタの新興国適応』文真堂</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 テーマ説明: 「国境のない世界、自由で平和な世界を目指す」とはどういうことか</p> <p>第2回 戦争と冷戦を超えて～WTOは何故生まれたのか～</p> <p>第3回 WTOの概要</p> <p>第4回 一般的最恵国待遇</p> <p>第5回 内国民待遇</p> <p>第6回 数量制限禁止</p> <p>第7回 経済制裁をWTOは禁止しているのに、実際には行われているのは何故なのか</p> <p>第8回 交渉に時間のかかるWTOを補完する地域統合</p> <p>第9回 EU①</p> <p>第10回 EU②</p> <p>第11回 EU③</p> <p>第12回 AFTAとAEC</p> <p>第13回 メルコスール</p> <p>第14回 TPP</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験(100%)		

授業科目	国際地論		担当者	野村 俊郎			
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	講義前後に適宜対応			
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「日本のものづくり」の海外移転に関わる問題はどうか解決されているか考える</p> <p>【概要】日本のモノづくりは、①暗黙知に依拠したカイゼン、②何を、何個、いつ納品するか曖昧な契約と、契約時に価格が決まらず、契約後の改善を経て価格が決まる契約の2つによって、世界1位のトヨタをはじめとする世界上位の販売と、ドイツVWの2倍に達するトヨタの利益に象徴される競争優位を生み出している。その秘密を解き明かし、その海外移転の課題について説明する。</p> <p>【到達目標】日本のモノづくりの強さの秘密を、暗黙知によるものと、取引関係によるものに分けて理解し、その海外移転の課題について理解する。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布</p> <p>(2) 野村俊郎『トヨタの新興国車IMV』および『トヨタの新興国適応』文眞堂</p>						
授業スケジュール	<p>第1回 テーマ説明：自動車産業に代表される日本のモノづくりの強さの秘密はどこにあるのか</p> <p>第2回 日本の強さの秘密はなぜ海外移転が難しいのか</p> <p>第3回 モノにおけるプロダクトイノベーションとプロセスイノベーション</p> <p>第4回 モノづくりにおける形式知と暗黙知</p> <p>第5回 暗黙知とは何か</p> <p>第6回 暗黙知はどうすれば移転できるのか</p> <p>第7回 トヨタが考えた暗黙知海外移転の方法①</p> <p>第8回 トヨタが考えた暗黙知海外移転の方法②</p> <p>第9回 自動車メーカーと部品メーカーの取引関係～日本と欧米の比較～曖昧契約の意義①</p> <p>第10回 自動車メーカーと部品メーカーの取引関係～日本と欧米の比較～曖昧契約の意義②</p> <p>第11回 自動車メーカーと部品メーカーの取引関係～日本と欧米の比較～価格決定のタイミング①</p> <p>第12回 自動車メーカーと部品メーカーの取引関係～日本と欧米の比較～価格決定のタイミング②</p> <p>第13回 自動車メーカーと部品メーカーの取引関係の海外移転①</p> <p>第14回 自動車メーカーと部品メーカーの取引関係の海外移転②</p> <p>第15回 まとめ</p>						
授業外学習(予習・復習)	適宜指示						
成績評価の方法	筆記試験 (100%)						

授業科目	アジア経済論		担当者	野村 俊郎			
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	講義前後に適宜対応			
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国・インド・ASEANの経済とAFTA・AECについて学び、その成長と限界を考える</p> <p>【概要】アジアには経済規模が世界最大の中国、第3位の日本、第5位のインド、今後の成長が期待されるASEANなどがある。それぞれが日本を除いて先進国の植民地だったという共通の過去、そして独立のための戦いを経て政治的に独立し、様々な試みの末に資本主義国として経済成長を遂げたという共通の歴史を持つ。こうした歴史を踏まえてアジア経済がどこに向かうのかを説明していく。</p> <p>【到達目標】アジア各国の経済が植民地経済から低開発経済を経て資本主義国として成長してきたことの意義と限界を理解する。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布</p> <p>(2) 野村俊郎『トヨタの新興国車IMV』および『トヨタの新興国適応』文眞堂</p>						
授業スケジュール	<p>第1回 テーマ説明：植民地経済から低開発経済を経て先進国経済へ～資本主義経済の成長力と限界～</p> <p>第2回 日米欧による植民地支配下と植民地経済～日米欧に収奪されたアジア～</p> <p>第3回 植民地支配からの独立を目指すアジア各国の戦い①中国</p> <p>第4回 植民地支配からの独立を目指すアジア各国の戦い②インド</p> <p>第5回 植民地支配からの独立を目指すアジア各国の戦い③インドネシア</p> <p>第6回 植民地支配からの独立を目指すアジア各国の戦い④ベトナム</p> <p>第7回 低開発経済からの脱却への道：社会主義、そして資本主義へ①中国</p> <p>第8回 低開発経済からの脱却への道：社会主義、そして資本主義へ②インド</p> <p>第9回 低開発経済からの脱却への道：社会主義、そして資本主義へ③ベトナム・ラオス・カンボジア</p> <p>第10回 奇跡の成長①中国の改革開放</p> <p>第11回 奇跡の成長②インド</p> <p>第12回 奇跡の成長③インドネシアの外資規制緩和</p> <p>第13回 奇跡の成長④ベトナムのドイモイ</p> <p>第14回 AFTA・AECと成長の限界：アジアに豊かで平等で持続可能な未来はあるか</p> <p>第15回 まとめ</p>						
授業外学習(予習・復習)	適宜指示						
成績評価の方法	筆記試験 (100%)						

授業科目	外国貿易論		担当者	大重 康雄		
	[履修年次]	1年, 2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)		
	[学期]	後期	[単位]	2	[授業形態]	講義
			[必修/選択]	選択		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 グローバル化という視点でとらえた貿易取引の変化とその問題について考える</p> <p>【概要】貿易や外国為替取引の仕組みをわかりやすく解説し、変化する貿易の現状とSDGs等国際間で発生する様々な課題を報道資料や日本貿易振興機構（ジェトロ）等のデータを使い考える。</p> <p>【到達目標】 貿易取引の基本的仕組み理解し、国際経済の動静に対し自分なりの見解が持てる。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) グローバル・エコノミー第3版 (有斐閣アルマ)</p> <p>(2) 講師配付プリント (毎回配付)</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 開講 貿易と私たちの暮らし</p> <p>第2回 自由貿易のもたらす利益</p> <p>第3回 新古典派貿易理論を学ぶ</p> <p>第4回 グローバル生産システムと貿易の現状</p> <p>第5回 国際収支からみた貿易の姿</p> <p>第6回 外国為替市場と為替レート</p> <p>第7回 貿易政策と貿易摩擦の歴史</p> <p>第8回 貿易決済の方法</p> <p>第9回 国際貿易の論点 中間まとめ</p> <p>第10回 世界の地域貿易協定の現状</p> <p>第11回 東アジアの発展と日本の貿易</p> <p>第12回 鹿児島県の貿易取引の現状</p> <p>第13回 グローバリゼーションの将来を考える</p> <p>第14回 グローバル・イシュー 開発と環境を考える</p> <p>第15回 まとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	授業中各自に質問をするのでシラバスに従って予習をしてください。また復習し次回質問すべきことをまとめておくこと。					
成績評価の方法	筆記試験 (80%) + 授業での発言内容 (20%)					
実務経験について	地域金融機関職員としての実務経験 (外貨資金取引・貿易投資相談業務など)、AIBA 認定貿易アドバイザー					

授業科目	国際関係論		担当者	福田 忠弘		
	[履修年次]	1, 2年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応		
	[学期]	前期	[単位]	2	[授業形態]	講義
			[必修/選択]	選択		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】国際社会に生じうるさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。</p> <p>【概要】本講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史 (特にアジアにおける冷戦) を対象とし、国際システムの歴史的変遷をたどる。</p> <p>【到達目標】国際社会の現代的諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない</p> <p>(2) 多賀秀敏編『平和学から見る世界』(成文堂、2020年)</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的、方法</p> <p>第2回 国際関係論の基礎1：国内社会と国際社会は何が違うのか</p> <p>第3回 国際関係論の基礎2：行為体と争点の多様化</p> <p>第4回 国際関係のなりたち1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦</p> <p>第5回 国際関係のなりたち2：アジアにおける冷戦の拡大1</p> <p>第6回 国際関係のなりたち3：アジアにおける冷戦の拡大2</p> <p>第7回 国際関係のなりたち4：朝鮮戦争とベトナム戦争</p> <p>第8回 国際関係のなりたち5：大国の支配とナショナリズム</p> <p>第9回 国際関係のなりたち6：冷戦後の世界秩序</p> <p>第10回 国際社会における諸問題1：グローバリゼーションと貧困問題</p> <p>第11回 国際社会における諸問題2：貧困と開発</p> <p>第12回 国際社会における諸問題3：国境を越える諸問題</p> <p>第13回 国際社会における諸問題4：グローバルガバナンス (1)</p> <p>第14回 国際社会における諸問題5：グローバルガバナンス (2)</p> <p>第15回 まとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する					
成績評価の方法	試験 (100%) によって評価する。					

授業科目	比較文化	担当者	小林 朋子
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化理解・異文化コミュニケーション・異文化交流とは何か。</p> <p>【概要】今日のグローバル化社会では、毎日の生活で異なる文化を持つ人々とのコミュニケーションが増加している。また、「異文化」とは国境を越える出会いを背景とした文化であるというステレオタイプを取り払えば、異質な他者との出会いも私たちの日常にある。本講義では、そうした他者とのような「関係性=コミュニケーション」を構築していくべきなのか、様々な観点から学んでいく。講義終盤では外国人との交流の時間を設ける。受講者はこの「異文化交流会」に向けて、主体的に考えながら講義を受ける必要がある。</p> <p>【到達目標】・広い視野から異文化を正しく理解した上で、他言語を話す人々の価値観を知り、適切にコミュニケーションを行うことができる。・異文化交流の意義について体験的に理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 伊佐雅子監修『多文化社会と異文化コミュニケーション』（三修社刊、2007年）</p> <p>(2) 池田理知子編著『よくわかる異文化コミュニケーション』（ミネルヴァ書房、2010年）他。（授業で随時紹介します）</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 異文化コミュニケーションを学ぶことの意義：文化・異文化とは何か</p> <p>第2回 グローバル社会と異文化コミュニケーション（1）：グローバル化の意味</p> <p>第3回 グローバル社会と異文化コミュニケーション（2）：異文化交流の歴史と異文化への根差</p> <p>第4回 空間、時間、異文化コミュニケーション：さまざまな意味をもつ空間と時間</p> <p>第5回 「地球都市の出現とコミュニケーション」：都市化する世界</p> <p>第6回 女性と異文化適応：異文化適応におけるジェンダー</p> <p>第7回 異文化コミュニケーションと誤解の接点：誤解という身近なできごと</p> <p>第8回 異文化コミュニケーションにおける言語選択：「英語の普及」をどう捉えるか</p> <p>第9回 異文化コミュニケーション者としての通訳者（1）：通訳の種類、通訳の歴史</p> <p>第10回 異文化コミュニケーション者としての通訳者（2）：通訳は言葉の置き換え作業？</p> <p>第11回 異文化交流会準備（1）：異文化接触とは「よそ者」と異文化適応</p> <p>第12回 異文化交流会準備（2）：グローバル化とアイデンティティー-自分のことば、他者のことば</p> <p>第13回 異文化交流会準備（3）：異文化コミュニケーションとは</p> <p>第14回 異文化交流会：異文化コミュニケーションの実践</p> <p>第15回 異文化交流会まとめ：新しい「異文化コミュニケーション」に向けて</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	授業への参加態度（40%）、小レポート（異文化交流会前の準備レポートを含む）（20%）、最終レポート（40%）		

(注) 文学科に合同

授業科目	アジア事情	担当者	福田 忠弘
	[履修年次] 1, 2年いずれも履修可 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】東アジア、東南アジアの歴史と現在の状況について把握する。</p> <p>【概要】アジアは、地理、歴史、言語、文化、宗教、民族など、すべての面において多様である。本講義では、「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を得ながらも、脱植民地化、国民国家建設など「共通性」について焦点をあてる。</p> <p>【到達目標】「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を深める。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的と方法</p> <p>第2回 「アジア」という概念：アジアはどこまでがアジアか</p> <p>第3回 歴史的形成1：植民地以前のアジア</p> <p>第4回 歴史的形成2：植民地のようす</p> <p>第5回 歴史的形成3：植民地からの独立</p> <p>第6回 歴史的形成4：脱植民地化、国民国家建設、開発</p> <p>第7回 歴史的形成5：冷戦下のアジア</p> <p>第8回 東南アジア1：インドシナ三国</p> <p>第9回 東南アジア2：ベトナム戦争の影響</p> <p>第10回 東南アジア3：タイ、ミャンマー、マレーシア</p> <p>第11回 東南アジア4：メコン河流域開発</p> <p>第12回 東南アジアの地域協力体制：ASEANの形成</p> <p>第13回 アジアにおける協力体制1：ASEANを中心とする協力1</p> <p>第14回 アジアにおける協力体制2：ASEANを中心とする協力2</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	レポート（100%）によって評価する。		

授業科目	国際経済特講 I		担当者	村田 秀博	
	[履修年次]	1、2年生	授業外対応	授業終了後 Eメールにて	
	[学期]	後期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地域経済の国際化と鹿児島県内企業の海外進出事例、それに伴う貿易取引</p> <p>【概要】日本の中小企業は、近年の国内経済環境の変化の中で企業活動を海外へ拡大させ、更なる商機をつかもうという動きが活発化している。県内でも同様であり、海外を目指す中小企業が「挑戦」「失敗」「成功」を繰り返している。その具体的な現状を認識した上で、海外展開方法論を考える。また基礎となる貿易知識も習得する。</p> <p>【到達目標】地域の海外展開の具体的な動きを理解する中で、優位性・課題問題点をふまえた独自の解決方法を見出す。県内企業・行政機関などで、海外業務を担当できるスキルを習得する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) レジュメ・プリント資料</p> <p>(2) 海外映像・サンプル・雑誌新聞投稿資料ほか</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス（日本経済・地域経済のグローバル化・海外知的財産権・外国人人材）</p> <p>第 2 回 鹿児島県内中小企業の国際化の現状</p> <p>第 3 回 進出国の情勢比較（中国）</p> <p>第 4 回 進出国の情勢比較（中国）</p> <p>第 5 回 海外知的財産権の保護（悪意の商標登録など）</p> <p>第 6 回 県内大学の海外展開・県内医療機関メディカルツアーの誘致</p> <p>第 7 回 進出国の情勢比較（台湾・香港・タイ）</p> <p>第 8 回 進出国の情勢比較（ベトナム・外国人人材受け入れ）</p> <p>第 9 回 進出国の情勢比較（ミャンマー・シンガポール）</p> <p>第 10 回 進出国の情勢比較（マレーシア・インドネシア・ロシアほか）</p> <p>第 11 回 貿易実務（各自由貿易協定、RCEP・TPP・FTA・EPA ほか）</p> <p>第 12 回 貿易実務（外国為替・為替相場・先物予約）</p> <p>第 13 回 貿易実務（外貨預金・外貨貸付）</p> <p>第 14 回 貿易実務（輸出・輸入）</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)					
成績評価の方法	筆記試験 50%+レポート 50%				
実務経験について	金融機関にて国際業務に 2 3 年間携わり、世界各地にてフィールドワーク実践。貿易・外国人人材・海外知的財産権専門家。海外ビジネスツアー 100 回以上企画催行。タイ王国赴任経験あり。				

授業科目	地域経済論		担当者	岡田 登	
	[履修年次]	1、2年	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	前期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地域経済構造及び理論を理解する。</p> <p>【概要】経済のグローバル化が進行し、国内においても地域間格差が拡大する中で、地域的な特徴を見極めて経済の再建と発展を図ることが求められる。この講義では、地域経済構造と基本的な理論を学び、地域の発展に向けた対応策について検討する。</p> <p>【到達目標】地域経済構造と理論を正確に理解することで、地域の特徴を分析する能力を身につけ、その発展に向けて考察できるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 はじめに：講義の目標、地域とは何か、等質地域と機能地域からみた地域経済</p> <p>第 2 回 都市地域論（1）：都市と農村、都市化の概念、都市の発展段階</p> <p>第 3 回 都市地域論（2）：都市の内部構造とメカニズム、都市システム</p> <p>第 4 回 産業地域論：産業構造の変化、都市の機能、都市の分類、地域経済基盤分析</p> <p>第 5 回 第三次産業地域論：中心地理論</p> <p>第 6 回 工業地域論：工業立地の変動、工業立地論、工業立地の分散</p> <p>第 7 回 農業地域論：農業立地論、農業地域区分、技術の地域的拡散</p> <p>第 8 回 漁業林業地域論：漁業地域の資源管理とコモンス論、林業地域の資源管理とガバナンス</p> <p>第 9 回 地域経済分析：地域経済計算、地域成長の経済分析、地域間格差</p> <p>第 10 回 内発的発展論：定義、事例紹介</p> <p>第 11 回 都市計画とまちづくり：仕組み、中心市街地と郊外、景観と緑地</p> <p>第 12 回 コンパクトシティ：経緯と概念、都市空間の形成、公共交通ネットワーク</p> <p>第 13 回 地域連携（1）：地域内連携、地域間連携</p> <p>第 14 回 地域連携（2）：産業連携</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	復習をして次回の講義を受けること				
成績評価の方法	授業時に実施するレポート（40%）+期末試験（60%）				
実務経験について	自治体の元職員				

授業科目	地域産業政策	担当者	岡田 登
	[履修年次] 1, 2年	授業外対応	適宜対応
	[学期] 後期 [単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地域間格差の実態を理解し、これからの地域づくりの方策を探る。</p> <p>【概要】経済のグローバル化が進行し、国内においても地域間格差が拡大する中で、地域的な特徴を見極めて経済の再建と発展を図ることが求められる。地域経済論では地域経済構造と基本的な理論を学ぶが、この講義では地域間格差の現状と顕在化する問題点を理解し、これからの地域づくりの方策を探る。</p> <p>【到達目標】地域間格差の現状と問題点を正確に理解し、具体的な取り組みの実態を学び、地域のあり方を考えて発想できるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 はじめに：講義の目標</p> <p>第 2回 政策的要因 (1)：国土総合開発法、全国総合開発計画</p> <p>第 3回 政策的要因 (2)：新全国総合開発計画、第三次全国総合開発計画</p> <p>第 4回 政策的要因 (3)：第四次全国総合開発計画、21世紀の国土のグランドデザイン</p> <p>第 5回 地域間格差の現状 (1)：ライフコースと人口移動</p> <p>第 6回 地域間格差の現状 (2)：産業、社会、生活</p> <p>第 7回 地域間格差の是正 (1)：過疎化対策、広域的市町村合併、地方分権</p> <p>第 8回 地域間格差の是正 (2)：国土形成計画法、地方創生</p> <p>第 9回 地域づくりの事例 (1)：大都市地域</p> <p>第 10回 地域づくりの事例 (2)：都市地域</p> <p>第 11回 地域づくりの事例 (3)：工業地域</p> <p>第 12回 地域づくりの事例 (4)：農村地域</p> <p>第 13回 地域づくりの事例 (5)：観光業地域</p> <p>第 14回 地域のあり方を考える：鹿児島を事例に</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	復習をして次回の講義を受けること		
成績評価の方法	授業時に実施するレポート (40%) + 期末試験 (60%)		
実務経験について	自治体の元職員		

授業科目	地方財政論	担当者	船津 潤
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可	授業外対応	講義前後、それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください)
	[学期] 後期 [単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地方財政に関する基本的な概念や理論、日本の地方財政制度の内容、実態、特徴、課題に関する理解を深めること</p> <p>【概要】地方自治とは何か、日本の国と地方自治体との関係(政府間関係)の特徴を踏まえて、日本の地方財政について、基本的な概念や理論、制度について講義します。そこでは、地方団体の自治体としての側面と国の地方行政機関としての側面の葛藤やグローバル化など、地方財政に改革が求められている背景、そして生活の基盤を支える地方財政の重要性を強く意識しながら講義を進めます。</p> <p>【到達目標】①日本の地方財政制度について理解し、説明できるようになること ②地方財政について主体的に考察し、判断できるようになること ③自分が暮らす地域の課題を見出し、その解決策を提案できるようになるための基礎力を身につけること</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 総務省編『地方財政白書 各年版』日経印刷</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明</p> <p>第 2回 地方自治(1)：定義、地方政府の特徴、地方分権が求められる背景等</p> <p>第 3回 地方自治(2)：グローバル化の影響等</p> <p>第 4回 地方の予算(1)：予算の役割、地方予算の特徴、中央と地方の相互依存関係等</p> <p>第 5回 地方の予算(2)：日本の制度の特徴、課題、日本の政府間関係の特徴の影響等</p> <p>第 6回 地方の決算：定義、日本の制度と問題点、外部監査、市民オンブズマン等</p> <p>第 7回 地方の経費(1)：定義、主な分類とその見方、都道府県と市町村の違い等</p> <p>第 8回 地方の経費(2)：義務的経費と投資的経費、その問題点等</p> <p>第 9回 国庫支出金(1)：補助金の分類、国庫支出金とは、求められる役割、補助金制度において配慮すべき原則等</p> <p>第 10回 国庫支出金(2)：実態、問題点、三位一体の改革等</p> <p>第 11回 地方交付税(1)：財政調整制度とは、地方交付税の制度等</p> <p>第 12回 地方交付税(2)：機能、問題点等</p> <p>第 13回 地方債：定義、適債事業、2006年度からの変化等</p> <p>第 14回 住民自治：シアトル・メトロの事例について</p> <p>第 15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等</p>		
授業外学習(予習・復習)	講義の前後に総務省のサイト等で関連事項について調べ、検討すること、普段から地方財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディア(民間企業との関係では特に興味深い)記事を出すことがあります)を含む複数)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入(地域との連携は殆どの大学にとって重要な課題です)にも非常に有効です)。そして、講義内容に直接関係しなくても、聞きたいことが出てきたら、遠慮なく質問してください。		
成績評価の方法	筆記試験(80%)、小テスト(20%)を基本とし、アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	非営利組織論	担当者	丸田 真悟
	[履修年次] 1,2年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会における非営利組織 (NPO) の役割と課題そして可能性</p> <p>【概要】非営利組織 (NPO) は、医療・福祉から街作り、学術・文化・芸術、国際交流まで社会のあらゆる分野で市民の多種多様なニーズに応えるサービスを創り出しています。行政や企業との協働も一段と進み、その存在は今や市民生活の中で重要な位置を占めるようになってきました。一方で NPO を巡る環境も大きく変わりつつあります。そこで本講義では NPO の概念と組織運営について考えると共に、現代日本社会における NPO の役割と課題、これからの可能性について考えます。</p> <p>【到達目標】NPO に関する基本的な知識を習得し、現代社会における NPO の役割と課題、可能性を考える基盤を養います。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを使用</p> <p>(2) 雨森孝悦『テキストブック NPO 第3版』東洋経済新報社 (2020)、澤村明・田中敬文・黒田かをり・西出優子『はじめてのNPO論』有斐閣 (2017)、田尾雅夫・吉田忠彦『非営利組織論』有斐閣 (2009) ほか随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 非営利組織 (NPO) とは何か 「非営利」の意味、NPO の定義について考えます。</p> <p>第 2 回 NPO とボランティア NPO を支える理念について考えます。</p> <p>第 3 回 NPO の歴史と存在理由 資本主義経済の中で存在感を増している理由を考えます。</p> <p>第 4 回 NPO の世界① 様々な NPO の活動分野とその組織としての特徴について考えます。</p> <p>第 5 回 NPO の世界② 様々な NPO の活動分野とその組織としての特徴について考えます。</p> <p>第 6 回 NPO の機能 NPO が社会において果たしている機能について考えます。</p> <p>第 7 回 NPO にかかわる制度と政策 NPO の運営や税に関する制度について考えます。</p> <p>第 8 回 行政、企業と NPO 行政や企業との「協働」・「パートナーシップ」について考えます。</p> <p>第 9 回 NPO のマネジメント① NPO の経営管理について考えます。</p> <p>第 10 回 NPO のマネジメント② NPO の経営戦略について考えます。</p> <p>第 11 回 NPO のマネジメント③ NPO の資金調達と評価手法について考えます。</p> <p>第 12 回 (WS) NPO をつくる① 具体的に NPO を考え、立ち上げる実習です。</p> <p>第 13 回 (WS) NPO をつくる② 具体的に NPO を考え、立ち上げる実習です。</p> <p>第 14 回 NPO の課題と可能性 NPO を取り巻く環境とそこから見えてくる課題と可能性について考えます。</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	レポート (70%) + 授業ごとに実施する小論文 (30%)		
実務経験について	認定 NPO 法人理事長		

授業科目	労働法	担当者	疋田 京子
	[履修年次] 1,2年 [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	コミュニケーションカードを利用する
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ディーセント・ワーク (人間らしい働き方) を実現するための基礎知識</p> <p>【概要】「過労死」が国際語として通用するほど有名な日本の長時間労働。また顕著になってきた正規と非正規の格差の拡大。こうした日本企業に根強い労働慣行は、どのような法制度の中で起こったのか。改革を目指す法整備と共に考える。</p> <p>【到達目標】働くときに知っておくべき労働者の権利と、使用者が守るべき義務とは何かを理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 講義時に適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス：労働法を知る大切さ。</p> <p>第 2 回 憲法一民法一労働法の関係：労働組合って何？</p> <p>第 3 回 労働法と労働契約：自分の労働条件を知らないとどうなる？</p> <p>第 4 回 賃金に関するルール：研修期間中は最低賃金法の適用がないってホント？</p> <p>第 5 回 労働時間に関するルール：タイムカードはいっつ押すの？</p> <p>第 6 回 労働時間に関するルール：時間外労働・深夜労働・休日労働とは？</p> <p>第 7 回 「各種保険完備」とは：パイトのケガは自己責任？</p> <p>第 8 回 労働契約終了のパターン：辞めると辞めさせられるは何が違う？</p> <p>第 9 回 有給休暇の権利：アルバイトにも有給休暇があるってホント？</p> <p>第 10 回 産前・産後・育児・介護休業：働くことは人権です！</p> <p>第 11 回 内定辞退と内定取消し：「必ず入社します」と誓約書を出したら内定辞退はできないの？</p> <p>第 12 回 募集・採用に対する法的規制：採用面接で会社は何を質問してもいいの？</p> <p>第 13 回 賃金に関する応用問題：残業代込みの基本給の場合、それ以上の残業代は出ないの？</p> <p>第 14 回 労働契約の応用問題：契約社員は契約期間が満了したらどうしたらいいの？</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	復習をしっかりとってください。		
成績評価の方法	2回のレポート (中間レポートと最終レポート) の提出 (80%) 授業ごとのミニレポート (20%)		

授業科目	地域研究特講		担当者	福田 忠弘	
	[履修年次]	1, 2年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	後期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】世界の格差の状況について認識し、貧困の問題について国際社会はどのような対応をとってきたのかを講義する。</p> <p>【概要】本講義では、さまざまな国際協力・開発援助について取り上げる。最初に開発援助についての歴史について言及した後、国際機関、国家、地方自治体、市民が主体となった国際協力について概観する。</p> <p>【到達目標】さまざまな行為体が、さまざまなレベルで、多様な援助が行われていることを理解することが到達目標である。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。</p> <p>(2) 新潟国際ボランティアセンター編『地方発の国際NGO：グローバルな市民社会に向けて』（明石書店、2008年）</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的と方法</p> <p>第2回 世界の現状1：数値からみる世界の格差</p> <p>第3回 世界の現状2：グローバリゼーションの進展</p> <p>第4回 第二次世界大戦後の国際経済体制：ブレトンウッズ体制について</p> <p>第5回 途上国の開発：輸入代替工業化戦略と輸出志向工業化戦略</p> <p>第6回 国際機関による援助1：さまざまな国際機関1</p> <p>第7回 国際機関による援助2：さまざまな国際機関2</p> <p>第8回 国家を主体とする援助1：ODAについて（1）</p> <p>第9回 国家を主体とする援助2：ODAについて（2）</p> <p>第10回 企業による社会活動：CSRを中心に</p> <p>第11回 市民を主体とする援助1：NPOの活動（1）</p> <p>第12回 市民を主体とする援助2：NPOの活動（2）</p> <p>第13回 市民を主体とする援助3：NPOの活動（3）</p> <p>第14回 人間の安全保障</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する				
成績評価の方法	試験（100％）によって評価する。				

授業科目	地方自治法		担当者	山本 敬生	
	[履修年次]	1,2年履修可	授業外対応	適宜対応（要予約）	
	[学期]	後期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】住民自治、団体自治といった地方自治の基礎理論を理解した上で、地方公共団体の種類及び事務、住民の権利義務、条例と規則、議会、執行機関を中心に地方自治法を体系的に学習し、地方の時代における国と地方公共団体との新たな関係について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】地方自治法は、国と地方自治公共団体の役割分担、機関委任事務の廃止に伴う法定受託事務の創設、普通地方公共団体に対する国または都道府県の関与、国と普通地方公共団体との間の係争処理手続等を規定している。本講義では、地方自治法をわかりやすく解説することで、地方自治法が地方分権改革を推進する上でいかなる役割を果たすかを学習する。</p> <p>【到達目標】地方自治法の基本構造を正確に理解し、国と地方公共団体のあるべき関係を法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 佐伯仁志他編、『ポケット六法（令和4年度版）』、有斐閣</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 地方自治の意義</p> <p>第2回 地方公共団体の種類</p> <p>第3回 地方公共団体の区域・事務</p> <p>第4回 住民の権利義務(1)</p> <p>第5回 住民の権利義務(2)</p> <p>第6回 条例と規則(1)</p> <p>第7回 条例と規則(2)</p> <p>第8回 議会(1)</p> <p>第9回 議会(2)</p> <p>第10回 執行機関(1)</p> <p>第11回 執行機関(2)</p> <p>第12回 国等の地方公共団体への関与</p> <p>第13回 長と議会との関係(1)</p> <p>第14回 長と議会との関係(2)</p> <p>第15回 予算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民自治、団体自治、伝来説、固有権説、地方自治の本旨について ・地方公共団体の構成要素（住民、区域、法人格）、都道府県、市町村について ・区域、機関委任事務、法手受託事務について ・住民、条例の制定改廃の請求、事務監査の請求について ・議会の解散請求、議員、長及び特定職員の解職請求、住民監査請求について ・条例制定権の範囲と限界、法令先占論、条例の効力について ・条例制定手続、条例と罰則、行政罰、規則の制定事項について ・議会の地位、町村総会、議会の組織、議会の権限、調査権について ・定例会、臨時会、議会の運営、会議公開の原則、会期不継続の原則について ・長の地位、長の権限、長の職務の代理、地方公共団体の事務所について ・行政委員会の意義、長と行政委員会との関係、監査委員、教育委員会について ・国の関与の原則、法定受託事務の処理基準、国地方係争処理委員会について ・議会の監視、再議制度、一般的拒否権、特別的拒否権について ・専決処分、長に対する不信任議決、議会の解散、再度の不信任議決について ・予算事前議決の原則、予算公開の原則、会計年度独立の原則について 				
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。				
成績評価の方法	筆記試験（90％）＋授業での発言内容（10％）を基準にして評価する。				